

保育計画成果報告書

法人名等	社会福祉法人 川崎立正福祉会
施設名	木月ほほえみ保育園
報告者（役職）	高橋 君子（園長）
住所・連絡先	川崎市中原区木月 4-14-5
	☎ 044-948-4483
	E-mail hohoemi@kizukihoikuen.jp

○タイトル（保育計画）

日々の生活の中で“自然”と運動能力が身につく環境

○主な助成備品

幼児向き巧技台一式 乳児用ビニール巧技台

1. 保育計画策定の目的

個々の発達に合った保育が営まれたためには、子どもの主体性が尊重されなければなりません。それには、子どもの現状を的確に把握し、発達に合った支援をしなければなりません。その様な保育をするためには、以下のことを大切にしていきます。

- ① 保育者の優しく丁寧な関わり。
- ② 子どもたちには、日々の生活や遊びの中で、人との関わりを身につけ、「生きる力」を育てていく。
- ③ 乳児期には、心理的な成長を活性化させる。
- ④ 自分の視野に入ったものに興味を持たせ、言葉の発達や基礎を促す。
- ⑤ 心身の発達は自己肯定が大切なので、「誉めること」を心掛け、保育者との関係づくりを充実させる。
- ⑥ 自主性は、日々の生活習慣の中から学べるようにする。
- ⑦ 保育や生活の中で、大人から「～させる」のではなく、進んで「～する」ことができるように人的・物的・空間的環境を整える。

子どもたちは毎日の園生活を充実して送ることにより、体と知恵が育ち、友達と関わる力が自然とついてくる。

このような保育環境の整備を大切にしています。

2. 具体的な実施内容

乳児用の巧技台について

日常生活の中で、常設の巧技台を設定しました。毎日この道を自然と通ることにより、ハイハイの距離が延び、伝い歩きなども自然と身につきます。また、色とりどりの巧技台は、色を見つけて遊んだり、言葉で色を表現したりと運動面以外の力も身につきました。山坂の上り下りは、日替わりで高く積み上げたり、長くつなげたりと、どんどん変化していきます。



おいしいよ。
はやくおいでよ

山坂を上り下りをしながら向かう先は・・・レストランです。生活の中で、自然と体を使う環境を作っています。

小さい子は大きい子の刺激もたくさんもらい、真似をしたり“やってみよう”という気持ちの高まりも出てきています。この写真は

1歳児が片づけてある巧技台を『使いたい』と…自ら自分の気持ちを伝えることにつながりました。

巧技台は、遊具の整っていない自園では、貴重な遊具、教材です。

大いに活用しています。



次の写真は2歳児が楽しんでいる場面です。

『順番に…』の言葉が出たり、『お手をどうぞ』と友だちを助けるような姿も見られます。これも自然に出た姿です。



幼児組では、巧技台一式を提供し、組み立ては子どもたちに託しました。

どのような組み立てをするか？保育士は「見守り、楽しみました」。

この中でも多くのドラマがありました。



子どもたちが考え作り上げた形は、遊びながらどんどん変わっていきます。子どもたちの表情から想像をふくめ、ご覧ください。

ここで遊んでいる子どもたちの年齢は、
2歳から4歳のお友だちです。
手前は机上の遊び、塗り絵や、迷路などのブース
です。奥はホールで創造力ブースです。
自由遊びの時間、巧技台も自由に使うことが
できるブースになっています。
巧技台を課題としてだけではなく、自由に
創造して使えるようにしています。



3. 成果と評価

子どもたちは、園生活を充実して送ることにより、体と知恵が育ち、友だちと関わる力が
増し、興味や関心も膨らみ、発展性へとつながります。また子どもたちのアイデアを取り
入れることで、創造力を掻き立たせてくれる環境にもなっています。

巧技台は可能性の大きな遊具であり、
個々の運動能力への刺激はとても大きく、
自由と自然の中からそれが見えてくることです。
子どもたちが欲している一場面は、
たくさんの物語を想像させてくれます。



4. 今後の課題と展望

巧技台で家の中
のイメージを作
り会話を楽しん
でいる



お風呂入る？



巧技台を、スタジアムにつかっちゃおう!!
上が観客席だよ

子どもたちからの主体的な遊びの広がり期待すると共に、出し仕入れがスムーズにできる巧技台の収納スペースの確保をしていきたいです。

発展・創造性のある遊びをつくる子どもたち。子どもたちの手にかかると、巧技台は、いろんなものに変身します。今後も子どもたちのイメージを大事に友だち同士の関わり・本園の理念である【気づきと意欲】を大切にして、子どもたちのさらなる飛躍に期待をしていきます。

以上